

政治学委員会 紛争下の人道的危機に関する国際政治分科会

(第26期・第6回) 議事録

日時： 令和7年7月28日(月) 15:00～16:21

形式： Zoom によるオンライン開催

出席者： 鈴木基史、石田淳、宇山智彦、大芝亮、栗栖薫子、古城佳子、武田康裕、
中西寛、都丸潤子

欠席者： 亀山康子、竹中千春

配布資料

議事次第

資料1 令和7年度・第一部予算の執行方針について(案)

資料2 公開シンポジウム「戦後80年の国境横断ガバナンスの形成と変容—開放と閉鎖の相克—」の開催について(提案書)

資料3 昨年度公開シンポジウム「迷走する国際秩序と人道危機」の成果出版用執筆依頼

資料4 日本学術会議法(国会可決済)

資料5 参議院内閣委員会附帯決議

資料6 第217回国会閣法第36号衆議院附帯決議

議題

1. 今年度の分科会予算について

鈴木委員長から資料1に基づき説明があった。予算総額の拡大により、分科会の予算・委員手当・旅費が増額され、分科会は当面2回まで手当が支給され、現

地出席者・公開シンポジウム登壇者にも旅費等が支給される。また、10月1日からの新学術会議法施行により組織改変が予定されている。

2. 今年度の公開シンポジウム（案）について

前回会合の審議内容をもとに鈴木委員長・石田副委員長が開催提案を作成され、7月22日までの分科会メール審議によって承認された国連創設80周年に関わる公開シンポジウム「戦後80年の国境横断ガバナンスの形成と変容―開放と閉鎖の相克―」について、資料2に基づき鈴木委員長より説明があった。会場は交通至便で国連大学も近い青山学院大学青山キャンパスに予約済みで、ハイブリッド開催も可能。研究者志望の若者が激減していることから、若い聴衆も集めたく、若者に話しかける観点で登壇者お一人15分強の時間配分でお願いしたいとのこと。

日程、登壇者など詳細について審議を行った。開催日は本日ご欠席の委員の予定も確認した上で、9月27日（土）か11月15日（土）のうち登壇可能な委員の多い方に決定することになった。

3. 昨年度の公開シンポジウム「迷走する国際秩序と人道危機」の成果公表について

資料3をもとに、上記のシンポジウムの成果公表の手続きについて鈴木委員長から説明があり、全体で審議を行った。

4. 政治学委員会等の関連委員会の活動について

鈴木委員長から、各種委員会のシンポジウムや意見表出予定について説明があった。本分科会シンポジウム案については上記2で審議した。

5. 日本学術会議法（第217回通常国会可決）について

資料4、5、6をもとに、鈴木委員長から6月に国会で可決された新しい日本学術会議法と衆参両院の附帯決議について説明があった。新法には連携会員という身分が定められていないことや、学術会議が提示してきた5要件と5懸念が附帯決議には汲み上げられている点も言及された。

続いて宇山委員からも7月4日の会員説明会の内容を中心に説明があり、設立委員会等の準備組織の構成や、運営に関する会則の内容など今後注視すべき諸点が示された。

6. その他: 特になし

* 次回分科会は例年の日本国際政治学会研究大会の開催期間中ではなく、日本学術会議の総会終了後、11 月以降に開催予定。

議事録作成者 幹事 都丸潤子